

## (7) 原子力発電所のコストは下限値として提示する

損害額及び事故確率に関する検討結果を踏まえ、本委員会は、モデルプラントが苛酷事故を起こした場合の損害額を最低でも6兆円弱と見積もり、国内の原子力事業者が40年間でこれに見合う費用を積み立てるという前提で、事故リスク対応費用を算定した。

この結果、事故リスク対応費用は1kWh当たり0.5円となった。本委員会は、①事故費用が確定していないこと、②事故費用が確定しえたとしても、一種の保険として考える場合、事業者は十分な余裕を持って事故リスクに備えるべきであるとの考え方<sup>24</sup>から、これを事故リスク対応費用の下限値として提示することとした。<sup>1</sup>

---

<sup>1</sup> 40年間の積立てという制度を前提とし、実際には40年間事故が発生しなかった場合は、運用された積立金が残るあるいは事業者に戻却されると考えれば、今回の事故リスクコストは下限ではなくなるのではないかとの指摘があった。